

# ねこのきもち

CAT'S HEART

2008 JUL.

7

Vol.38

をのり切る  
かんやり  
ニコ  
アイデア



人と愛猫との生活総合誌

「ねこのきもち」読者のためのコミュニティサイト  
「ねこのきもちeNetメンバーズ」  
<http://nekonokimochi.benesse.ne.jp/>

専門家8人に  
聞きました。

フード  
コミュニケーションで  
猫ともっと  
仲よくなれる!

元気で  
長生きのための  
50のヒント

今日からすぐ愛猫にしてあげたい!

# 元気で長生きのための50のヒント

専門家8人の経験とコツ、集めました。

仕事や日頃の活動を通じて猫と接する機会の多い8人の方々に、愛猫に長生きしてもらうためのヒントをうかがいました。愛猫に合いそうなものや、できそうなところから、ひとつずつ取り入れてみませんか？

撮影/岡田敬造 イラスト/齊藤 恵



東京・阿佐ヶ谷にある「猫の病院」院長。著書に「くる日もくる日も猫猫猫」(主婦の友社)。愛猫はパティちゃん(メス・13才)ほか2匹

獣医師  
玉野恵美先生



東京・阿佐ヶ谷にある「猫の病院」の看護士として、猫たちの診療をサポート。愛猫はかんたんくん(オス・8才)

動物看護師  
彦坂綾美さん



金巻・くぼ空間工房主宰。設計業務のほか、動物との暮らしをテーマにした建築コーディネートとして活躍。著書に「犬・猫の気持ちで住まいの工夫」(彩国社)、「マンションで犬や猫と上手に暮らす」(新日本出版社)など。愛猫はウリちゃん(メス・16才)

一級建築士、愛玩動物飼養管理士(一級管理士)  
金巻とみ子さん



家庭犬のためのしつけスクールCan! Do!代表。日本動物病院福祉協会認定家庭犬インストラクター。著書「犬の保育園」には猫にも応用できるしつけ理論も。愛猫はチビくん(オス・10才)

動物インストラクター  
西川文二先生



「キャットシッター」な入り「開業以来、のべ4万5千匹以上の猫のお留守番をサポート。バラカウンセラ、ターミナルケアリスト。「猫の森の猫たち」(駒草出版)など著書多数。愛猫はスズちゃんほか。  
<http://www.catster.jp/>

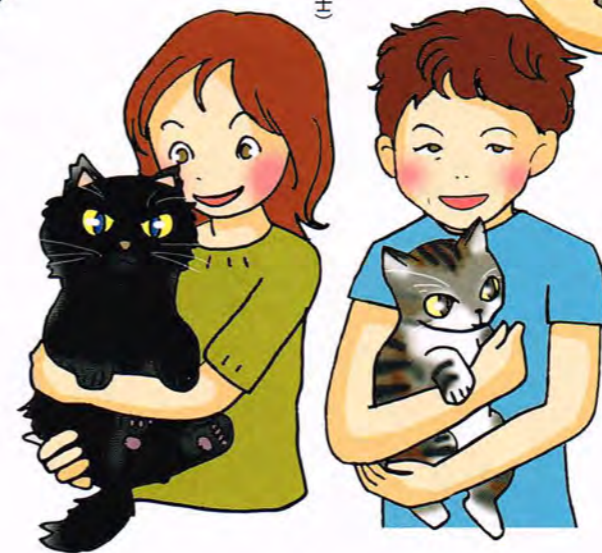
猫の森株代表  
キャットシッター  
南里秀子さん



東京大学大学院農学生命科学研究科准教授。研究のかたわら、コンパニオンアニマルの問題行動の治療にもあたる。愛猫はユツちゃん(メス・9才)

動物行動学の専門家、獣医師  
武内ゆかり先生

地域猫活動ボランティア団体「公園のネコたち」代表  
ボランティアスタッフ  
村島和泉さん  
細野悦子さん  
細野さんは、中央区動物との共生推進員、東京都動物愛護推進員として活動。愛猫はマックスくん(オス・13才)ほか。村島さんはペットシッターとしても活動。愛猫はベッカムくん(オス・6才)。写真は保護した猫のこうちゃんとチーパビちゃん



撮影に協力してくれた飼主さんと猫たち

千葉県松戸市 小野寺美樹さん  
響くん(オス・1才)  
マロくん(オス・15才)  
クーちゃん(メス・5才)



- ヒント 10
- ヒント 9
- ヒント 8
- ヒント 7
- ヒント 6
- ヒント 5
- ヒント 4
- ヒント 3
- ヒント 2
- ヒント 1

- 10 室内飼いを心がける
- 9 誤食やケガの恐れのある物は猫に近付けない
- 8 猫だけが入れれる逃げ場所を作っておく
- 7 フードは適量を量って与える
- 6 猫が運動不足や肥満にならない程度にいつしよに遊ぶ
- 5 トイレは掃除をこまめにして清潔に
- 4 お手入れは、無理せず気負わずできる範囲です
- 3 猫が元気なうちからかかりつけ医をもつ
- 2 飼い主さん自身かストレスをためないようにする
- 1 人の習慣や好みを猫に押し付けない

これだけはしておきたい  
**基本のヒント 10**

長生きの秘訣は、リスクを減らして猫に快適な環境をつくること

愛猫に元気で長生きしてもらうためには、愛猫が若いうちから、ケガや病気などのリスクをできるだけ減らし、猫が安心して健やかに暮らせる環境をつくらなければならない。

そのためには、日々の健康管理やお世話を通じて病気の予防や病気の早期発見・治療をすること、そして誤食やケガなどの事故防止に配慮した生活環境を整えてあげることが大切です。また、環境づくりや猫との接し方の面で、病気の原因になりやすい肥満やストレスの予防も心がけてあげたいですね。

老化の現れ方や始まる時期は猫により違います

猫が若いうちから安全で快適な暮らしを心がけることはもちろんですが、老齢期に入ったら猫の年齢に合ったお世話や環境づくりにも配慮したいもの。

どんな猫も生きていけばやがて老齢期が訪れ、筋力や代謝機能が衰えてきます。いつ、どのように老化が現れるかは猫によって違いますので、飼い主さんは日頃から愛猫の様子をよく観察し、行動や様子の変化に気が付き、猫が少しでも快適に暮らせるよう工夫してあげましょう。

# 体のお手入れ編



もともときれいな猫は、自分の体は自分で毛づくろいしますが、爪切りやブラッシングなどを飼い主さんが手伝ってあげることが、愛猫の健康状態をチェックすることができます。

若いうちからできること

**ヒント 19**  
● ストレス予防に  
● 事故防止に  
● 病気の早期発見・治療に

推薦者



猫用ミルクを付けたガーゼを指に巻いて猫になめさせ、口周りを触れるように小さい頃から慣らしておく

猫が口を触らせてくれないときは、猫の好物を指に塗り、口や歯に触れて練習します。口を開けられるようになっておくと、薬を飲ませるときにも便利

早い時期から体を触られることに慣らして

口周りをはじめ、体中を触れるように慣らしておく、お手入れしやすいのはもちろん、健康チェックもしやすくなります。とくに歯は、痛めると食事に影響が出るほか、口の中の菌が体内を巡り他の病気を併発する恐れも。歯磨きが難しくても、ときどき歯石や歯茎の色などをチェックしたいですね。

若いうちからできること

**ヒント 20**  
● 病気の早期発見・治療に

推薦者



慣れていく猫なら、「爪切りの日」などをくり、定期的にお手入れする

定期化することで愛猫の変化により気付きやすく

抵抗なくお手入れさせてくれる猫なら、できる範囲で定期化してみてもいい。以前に比べて爪の伸びが遅くなった、毛の抜け方が多い、歯石が多いなど、愛猫の変化に気付きやすくなり、病気などの早期発見につながります。



# 環境づくり編

若いうちからできること

**ヒント 23**  
● 事故防止に  
● 病気の予防に

推薦者



外へ通じる扉などを開け閉めするときは、体やカバンで足元をブロック

脱走すると迷子や交通事故、ケガ、病気感染などの危険が

猫が脱走しないように、扉や窓の開け閉めは日頃から慎重に行いましょう。開け閉めの前に猫の居場所を確認し、開けるときは自分の足や手荷物で足元をブロックします。とくにベランダへの扉は、脱走したあと落下の危険もあるので要注意です。



外から中に入るときは、扉の向こうで猫が待ち構えていることを考慮して、足元の隙間をブロックしながら開けて

若いうちからできること

**ヒント 24**  
● 病気の予防に

推薦者



猫や人の体に優しい建材の住居に住む

猫にも人にも優しい環境を心がけて

人より体の小さい猫は、人以上に、シックハウス症候群や化学物質によるアレルギーなど、住環境の悪影響を受けやすい可能性があります。住居は、これらに配慮された建材を選びたいものです。家電製品に電磁波防止グッズを付けるのもおすすめ、と南里さん。

若いうちからできること

**ヒント 25**  
● 事故防止に  
● 病気の予防に

推薦者



猫の嫌がる物を使って、ガス台やシンクなどに猫を近づけないようにする

ドアを開めて出入りさせない手も

家の中には、ガス台やシンクなど、誤食やケガの危険のある場所があります。ドアを開けて猫を近づけないようにするか、猫の嫌いな感触の素材（粘着テープやアルミホイル）、しつけ用スプレーなどをを使って、猫の侵入をブロックする工夫をしましょう。

ベタッとした感触を嫌がる猫も



10才を過ぎ、抜け毛が減ってきたら...

**ヒント 21**  
● ストレス予防に

推薦者



毛取り用のブラシより肌優しい用品に体刺激の少ない物で優しくお手入れ

猫の肌に負担をかけないよう、お手入れ用品も柔らかめの物に。ブラシをやめて、フェルトや綿など毛が付きやすい素材でなでるだけでも、抜け毛が取れ、毛艶がよくなります。



南里さんおすすめのお手製「猫磨き」。フェルト素材の生地が優しくなでながら、体の表面の余計な抜け毛を取り除きます

10才を過ぎ、毛づくろいが減ってきたら...

**ヒント 22**  
● 病気の早期発見・治療に

推薦者



ブラッシングの頻度を増やし、マッサージ的なやり方に変更毛づくろいを手伝っては

年をとると毛づくろいが億劫になるので、猫がしない分を補うつもりでお手入れの頻度を増やしましょう。ただし年とともに代謝機能が衰え抜け毛は減ります。抜け毛対策というより、マッサージしてあげるつもりで優しくなでるだけでOK。



若いうちからできること

**ヒント 26**  
● 事故防止に  
● 病気の予防に

推薦者

猫に留守番させるときは、危険な場所や物がなければ出かける前にチェック!

目が届かないときこそ事前に危険を取り除いて

誤食やケガなどの事故は、飼い主さんが見ていないときほど起こりやすいもの。家を空けるときは、危険がないかいつも以上に確認する習慣を。



フタを開けておいた洗濯機の中に猫が落下したり、誤って電源を入れてしまう事故が意外に多いと村島さん。フタが閉じているか確認してから出かけましょう

出かける前に確認しておきたい基本のチェック5

- 外に続くドアや窓の鍵をかけたか
- 浴槽、トイレ、シンク、ガス台などの危険な場所は猫が近づけないようにしてあるか
- 小物、洗剤、薬など、誤食の恐れのある物はしまっているか
- 暖房など事故につながりやすい電気器具の電源は抜いているか
- 猫が閉じ込められていないかなど、猫の居場所を把握しているか



若いうちからできること

ヒント 27 ●ストレス予防に ●病気予防に

推薦者



窓辺や部屋の隅などに、猫がリラックスできる場所を作っておく

1匹でリラックスできる場所、安心して猫が猫には必要

単独行動を好む猫は、日当たりのよい場所で1匹でのんびりしたり、誰にも見られない安心できる場所で休んだりするのが好みます。このような、猫が気持ちよく過ごせる場所、誰にも邪魔されずに休める個室のような休息場所など、猫にとつての快適スペースをたくさん作っておきましょう。



日向ぼっこ用に、窓辺に座布団や猫ベッドを置いたり、タオルを敷いたり。直射日光が当たり過ぎないように、薄手のカーテンを引いておいても

部屋の隅や家具の間、ベッドの下、使わなくなった机や台の下など、背後を囲われて安心できる場所に箱やキャリーケースを置いて猫の休息場所に

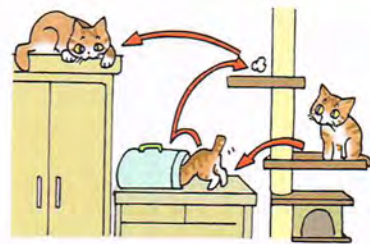
ヒント 28 ●ストレス予防に ●肥満予防に

推薦者



家具で高低差をつけたりトンネル風の通路を作るなど室内を複雑な造りにする

床面積の広さよりも、3次元的に複雑な造りが重要



金巻さんによると、林の中をイメージして家具類を配置するといふそう。木登りのような上下運動ができるように高低差のある家具を並べたり、木の上から見下ろすように人の視線より高い程度の場所に猫用スペースを作ったり、穴倉に潜むように家具に囲まれた場所に猫用の休息場所を作ってみては。

若いうちからできること

ヒント 29 ●ストレス予防に

推薦者



窓から外を見せたり、ベランダや庭で外の空気に触れさせる

外を知っている猫には適度な刺激に

子猫のときから完全室内飼いなら、無理に外に出す必要はありませんが、外の生活が長かった猫などは外の空気を吸うことがいい刺激になることも。リードを着けてのお散歩や庭に出す習慣のある猫は、定期的なワクチン接種とノミ予防を忘れずに。

ヒント 30 ●ストレス予防に ●事故防止に

推薦者



キャリーケースやケージの中を、猫の好きな場所にする

さまざまな場面でキャリーケースやケージが活躍



キャリーケースは部屋に出しておき、毛布などを敷いて猫が入りたくなる場所に。中でおやつなどをあげると喜んで入るようになります

若いうちからできること

ヒント 31 ●ストレス予防に

推薦者



知人や親戚を家に招いたりペットシッターを利用して、家族以外の人に慣らす

たまに適度な刺激を与えることで、ストレスに強い猫に

子猫のときから来客の機会を多くしたり、留守番時にペットシッターを利用するなど、外部の刺激を適度に取り入れると、比較的ストレスに強い猫になります。適度な刺激に慣らしておくと、通院などで外出するときにも猫への負担が少なくなります。

10才を過ぎ、足の筋力が落ちてきたら...

ヒント 32 ●ストレス予防に ●事故防止に

推薦者

全員が推薦!

高い場所へのジャンプをためらう素振りを見せたら、箱や家具で段々を増やす

好きな場所に行くルートを確認してあげて

足腰の筋力が衰えるとジャンプ力も弱まります。ジャンプの前にひと呼吸ためが入るようになったら、高さの低い家具や箱などを置いてステップを増やし、高くジャンプしなくても目的地へ移動できるルートを確認してあげて。金巻さんによると高低差が40cm以内だと上り下りしやすいのだとか。



お気に入りの場所

追加した収納箱

追加した台

たとえばこの部屋の場合は、冷蔵庫の上にある猫のお気に入りの場所に無理なく上れるように、ケージ脇に小さな台を、冷蔵庫横の棚の上に小さな収納箱を追加して、一段一段の段差を少なくしています

10才を過ぎ、足腰が弱ってきたら...

ヒント 33 ●事故防止に

推薦者



猫が高い場所から飛び降りる着地点には、座布団などを敷いておく

上るときより下りるときが危険

猫には上下運動ができる環境が望ましいですが、年をとると下りる際に爪などを引っかけてケガをしたり、飛び降りた拍子に滑って足をくじく危険も。ヒント32のようにステップを増やして高低差を少なくするが、着地点に座布団などを敷いて衝撃を吸収する工夫を。



ヒント 34 ●病気予防に

推薦者



家の中の温度差は5℃以内に。湯たんぽやクールマットなど保温・保冷の手段を用意

猫自身が快適な場所を選べるようにする

猫の体に負担をかけないためにも、移動する部屋の温度は極端な差が出ないよう温度差5℃以内に収めることが望ましいと金巻さん。また、クールマットなどを利用した涼しいスペース、毛布や湯たんぽを置いて温かい寝床などを用意し、猫が自分自身で快適な場所を選べるようにしておくといひです。

オメデトウ! わが家のご長寿自慢

21才

ひと目ぼれして知人から譲り受けたちびな。結婚、出産など人生の節目とともに



大阪市 松本ありさん ちびなちゃん (メス)

ちびなを迎えて、家族が増えて...

引き取った当時、ちびなは生後1カ月ほど。丸めた靴下相手に1匹で遊び出すほど元気な子猫でした。その後私は結婚し、出産。子供がちびなに乱暴に接することもありませんでしたが、決して手を出さず、賢い猫でした。



3年前に迎えた同居猫のKちゃん(メス・3才)とは付かず離れずのいい関係



机の下に猫ベッドを置いた専用スペース。ここでリラックスしているときは、家族もそっとならんでいるそう

# 健康管理編



愛猫に元気に長生きしてもらうためには、何といつても日頃の健康管理が大切！  
きちんと病氣予防を心がけ、体調の変化にいち早く気付いてあげることが、病氣の早期発見に、そして長生きにつながるのです。

若いうちからできること

**ヒント 35**  
●肥満予防に  
●病氣の  
●早期発見・治療に



推薦者

ひと月に1度は  
愛猫の体重を量る

増減を把握して病氣を早期発見

多少の増減は問題ありませんが、急激な変化には病氣の可能性も。定期的に量り、増減を把握しましょう。玉野先生によると、1年以内に2割以上の体重の変化（4kgの猫なら800g以上の体重変化）があった場合は獣医師に相談したほうが良いでしょう。人の赤ちゃん用体重計を使うか、飼い主さんが抱っこして量り、そこから自分の体重を引いて。



若いうちからできること

**ヒント 40**  
●病氣の  
●早期発見・治療に

推薦者

全員が推薦!

日頃から愛猫をよく観察し、スキンシップなどを通じて微妙な変化に早く気付けるようにする

変化に気付くには、まずいつもの状態を知ることが大事!

愛猫の日頃の様子や行動、しぐさなどをよく観察し、健康なときの状態を把握しておきましょう。健康チェックは見るだけでなく、ニオイを嗅いだり、触ったりしても。猫に顔を近付けたり触れたりしても平気なように、日頃から慣らしておきたいですね。

日々の観察はここに注目  
基本のチェック10

- 食へ方や歩き方など猫の行動はいつも通りか
- 食べる量、飲む量はいつも通りか
- 排泄の回数、排泄物のニオイ、量、色、状態などいつも通りか
- 触ったときに平気なのに嫌がらないか
- 全身にしじりや腫れ、脱毛部位などはないか
- ノミやダニ、汚れなどは付いていないか
- 耳や鼻、口周りに異臭はないか
- 目、耳、鼻、歯、肉球などの色はいつも通りか
- 急に痩せていないか
- 表情や様子など、元気があるか



若いうちからできること

**ヒント 36**  
●病氣予防に  
●病氣の  
●早期発見・治療に



推薦者

治療より、予防のために動物病院を利用する

防げる病氣は先に防いで!

病氣が重度に進行すると、治りにくくなり猫に負担をかけるのはもちろん、飼い主さんにも大きな精神的・経済的負担がかかります。予防できる病氣は予防し、定期健診などで病氣の早期発見・治療を心がけて。

ぜひしておきたい  
基本の予防策

- 保護したときのウイルス検査
- 毎年のノミ予防薬投与
- 定期的なワクチン接種
- 血液検査や尿・便検査など定期的な健康診断

※どれくらいの頻度でどんな検査や予防処置を行ったほうがよいかは、かかりつけの獣医師にご相談ください。

若いうちからできること

**ヒント 37**  
●病氣の  
●早期発見・治療に

推薦者

電話で問い合わせるが受診しよるか迷ったら、とりあえず受診!

一度診てもらった経験を次回に活かせる

電話でのやり取りよりも実際に受診したほうが的確な治療やアドバイスが受けられます。受診することで飼い主さんの経験が蓄えられ、次回、同じように体調を崩したとき慌てず対処できるようになる。

若いうちからできること

**ヒント 41**  
●病氣の  
●早期発見・治療に

推薦者

行動や体調の変化に気付いたら、カレンダーにメモしておく

すぐに書いて1年分見られる

カレンダーが便利

上の、ヒント40のチェック項目を参考に、愛猫の体調変化を書き込んでみて。また、大きな気候の変化やフードの切り替えなど、体調に影響を及ぼしそうな要素も書いておく。あとで年間を通じての体調変化を振り返ることもできます。



若いうちからできること

**ヒント 38**  
●病氣予防に

推薦者

交配の予定がないなら、早期に去勢・避妊手術をする

病氣の発症率を抑えられる

メスの場合はとくに、若いうちに手術しておくことで子宮内膜炎を予防できたり、乳腺腫瘍の発症率を低く抑えられるといわれています。オスの場合も生殖器の病氣にかかりにくくなります。

若いうちからできること

**ヒント 39**  
●病氣予防に

推薦者

軽度の歯石は、デンタルケアフードで予防する

お手入れが無理ならフードでケア

歯石がたまると歯周病や他の病氣の原因に。歯のお手入れが難しい場合はせめて、デンタルケアフードを取り入れてみては。毎年1カ月間の歯石予防月間をつくり、その間だけでも歯石予防効果のあるフードに切り替えるといいですよ、と玉野先生。



※歯石ケアについてはP51からの特集でくわしく紹介しています

若いうちからできること

**ヒント 42**  
●病氣の  
●早期発見・治療に  
●事故防止に

推薦者

体調を崩しているときは、なるべく目の届く範囲にとどめておく

いつもよりも目を気付けて、変化にもすぐ気付く

愛猫が体調を崩していたり、持病などで経過観察が必要なときは、少しの変化にもすぐに気付けるように、なるべく目の届く範囲でいつもにいますように。猫の居場所を動かすのではなく、飼い主さんから近付けてあげて、頻りに様子を見に行くなど、いつもより気にかけてあげられるといいですね。



# 猫との接し方編

愛猫が健康な状態を維持できる接し方、ストレスをためない接し方、安心して暮らせる接し方を、飼い主さんは心がけたいもの。専門家の皆さんのヒントを参考にしてみてください。



若いうちからできること

**ヒント 43**

● ストレス予防に

推薦者

猫から寄ってきたときにだけ、かまっておけるようにする  
猫の気分やペースを尊重してあげて

人になついている猫でも、必要以上に触られたり抱っこされるのを嫌がる場合が。一方的なスキンシップは猫のストレスになるほか、飼い主さんとの関係を悪くしかねませんので、控えて。飼い主さんが猫を膝に抱くのではなく、猫から膝のつてきたときに優しくなでてあげるとなまかい方が理想です。



若いうちからできること

**ヒント 47**

● 病気の早期発見・治療に  
● ストレス予防に

推薦者

規則正しい生活リズムを守って猫と暮らす  
猫が安心して暮らせるほか、健康管理もしやすくなる

飼い主さんが規則正しい生活リズムの中で猫と接していると、猫自身の生活にも自然にリズムができて、猫も安心感を覚え、健康的に暮らせるようになります。また、猫の食事の時間などを決めておくと、排泄や食事量の確認がしやすく、愛猫の健康管理にも便利です。



10才を過ぎた頃からは…

**ヒント 48**

● ストレス予防に

推薦者

トイレなどで失敗するようになっても猫を叱らない

猫自身はできているつもり。老化のサインとして受け止めて  
年とともに筋力が衰え、体の反応が鈍くなると、今まで普通にできたことができなくなつてきます。トイレに間に合わず相相することも。そんなときは慌てず、叱らず、老化の現れとして受け止めましょう。猫は可能な限り今までと同じ行動をとろうとしますので、飼い主さんはそれを助けてあげて。

若いうちからできること

**ヒント 44**

● ストレス予防に  
● 事故防止に

推薦者

複数飼いの場合は、猫同士の関係になるべく介入しない

相性の悪い猫同士なら、お互いが遭遇する機会を減らして

猫同士で不要な争いを避け、相手との距離を考えていますので、基本的には飼い主さんが介入する必要はありません。同じ部屋にいられないくらい相性が悪い場合は、食事や排泄の場所を分けて、お互いのストレスを減らしてあげて。



若いうちからできること

**ヒント 45**

● 病気予防に  
● ストレス予防に

推薦者

猫の近くで、飼い主さんはネガティブな言葉を使わない  
明るい環境をつくることで猫の免疫力もアップ!

ネガティブな言葉を使っていると、飼い主さんは明るい気持ちになれませんし、猫も、飼い主さんの暗い気分を敏感に察知します。猫・人ともに免疫力アップを図るためにも、飼い主さん自身が明るい気分であることを心がけたいですね。

加齢とともに、遊びに興味がなくなったら…

**ヒント 49**

● ストレス予防に  
● 事故防止に

推薦者

「いっしょに遊ぼう」から「いっしょにいようね」に  
つきあい方をシフトする  
体力が衰える代わりに、甘えが強くなる猫も

以前は、がまって、イコール「遊んで」だったのが、最近は「いっしょにいて」という意味が変わってきたと話す金巻さん。年とともに、運動への欲求が減ってくる代わりに、飼い主さんとの、穏やかに安心できる時間を楽しむ猫も多いようです。

15才を過ぎ、反応が鈍くなったら…

**ヒント 50**

● ストレス予防に  
● 事故防止に

推薦者

飼い主さんのほうからよく話しかけて、猫を安心させましょう

周りの状況が把握できず、不安を感じるようになる猫も

猫は、耳が遠くなったり視力が低下したりすると、自分の周りで起こっていることをうまく察知できなくなり、不安にかられたり、大きな変化に怯えたりするようになります。飼い主さんのほうからときどきそつと声をかけ、猫を安心させてあげたいですね。



若いうちからできること

**ヒント 46**

● 肥満予防に  
● ストレス予防に

推薦者

一つの遊びに反応しなくても他のいろいろな遊びを試す  
猫が興味を引かれる遊びを探して

うちの猫は寝てばかりで遊びに興味がない、前は遊んだけどもう遊ぼうとしない、とすぐには諦めず、猫が元気に動けるうちは、いろいろな遊びを猫にしかけてみて。猫が自分で興味の対象を見つけられず、遊ぶことを忘れていただけでも、遊びはストレスの解消にもなり、健康状態を保つ上でも重要です。



おもちゃの種類を変える方法もありますが、同じおもちゃでも、置く場所や動かし方などを工夫するだけでまた興味を示すように

## オメデトウ！ わが家のご長寿自慢

わが家に迎えたときすでに25才！  
ようやくなつき、今は30代をめざしてがんばっています



埼玉県入間市 藤井隆子さん たまくん (オス)

初めは威嚇していたたままも今は抱っこできるまで！

知人の老夫婦が亡くなり、引き取ったまま猫を飼うこと自体が初めてだった私は、ヒゲが抜けたといえは驚いて病院に電話し、猫に近付けば威嚇される毎日でした。今ではお互いに慣れ、いい同居相手です。



藤井さんと知人の子供に抱っこされても平気なまでに慣れたたまくん

26才

毛づくろいは掃除機、フードはドライという、こだわりが長生きの秘訣!?  
歯がないのに、一生懸命ドライフードを食べています。ウエットを与えても頑として食べません。またなぜか掃除機で抜け毛を吸い取られるのも好きみたい。喜ぶことをしてあげたいので、当分の習慣も続きそうです。



歯がなくても、ドライフードを好んで食べています


掃除機を見るとこの場所へ。吸い足りないかと鳴いてアピールするそう

# 食事&トイレのお世話編

若いうちからできるといい

**ヒント 11**

- 病気予防に
- ストレス予防に

推薦者 

なるべく小さい頃からいろいろなフードを食べさせる味の好みや栄養の偏りを防ぎ、治療食などへの切り替えもスムーズに

西川先生は、仕事柄たくさんもうフードサンプルを愛猫によく与えていたそう、今ではどんな風味のフードを与えてもたいは食べるのだとか。いろいろな風味や形状に慣らしておく、病気などでフードを切り替えるときにも移行しやすく便利。



**ヒント 16**

- 病気予防に

推薦者 

フードボウルの下に台を置き、ボウルの位置を10cmほど高くして、猫の口に近付ける。食べやすい高さに調整して、飲み込みやすいように調整して、

低い位置からフードを食べるときに、飲み込みにくさを感じるようになる猫も。飲み込みにくさなら、ボウルを台の上に置くなどして高さを調整しましょう。猫によって食べやすい位置は違いますので、愛猫の様子を見ながら少しずつ調整して。



金巻さんは、1人用鍋の鍋置きの上にフードボウルを置くようにしたそう。愛猫ウリちゃんの食も進むように

若いうちからできるといい

**ヒント 12**

- 肥満予防に
- 病気予防に

推薦者 

獣医師やペット栄養士に、ときどき栄養相談をする。専門家の意見を取り入れて、愛猫に一番合う食事内容を考える。

食事は健康管理の基本です。猫も、体格や健康状態、運動量や生活環境などにより、1日に必要なカロリーに個体差があります。愛猫に最適なフードの種類や量について、定期的にかかりつけの獣医師などに相談してみましょう。



**ヒント 13**

- 病気予防に

推薦者 

猫の行く部屋にはすべて、水飲み場を用意する。尿路系疾患を防ぐためにも、いつでも猫が水を飲める状態に

動物が生きていく上で水は欠かせません。飲みたいたときにいつでも飲めるように、猫の行動範囲には水飲み場を1部屋に1カ所以上用意し、新鮮な水を入れておきましょう。夏場はとくに、熱中症予防のためにも水飲み場をたくさん用意して。

**ヒント 17**

- 病気予防に
- ストレス予防に

推薦者 

トイレや水飲み場など生活に必要な場所を増設する。猫の近くへ動かしやすくなる、設置場所を増やして

足腰が弱くなると、歩くことが困難になることもありますので、トイレや水飲み場は増設してあげて。猫は「いつもの場所」に行こうとしますから、トイレを増設した場合は排泄物の付いた砂を新しいトイレにも入れるなど二オイで誘導してあげて。

**ヒント 18**

- 事故防止に
- 病気予防に
- ストレス予防に

推薦者 

縁の低いトイレにして、トイレ周りにシートを敷く。縁の高さによるケガやストレスを防ぎ、シートで飛び散り汚れをキャッチ

トイレの縁を越えたり、縁に足をかけて踏ん張ったりするのがつらそうなら、平たく縁の低い容器に変えるなどの工夫を。ただしトイレ環境の変化を嫌う猫もいるので、容器を変えるときは置き場所を変えず、砂も今までと同じものを。

砂の上で排泄するのも困難そうなら、砂からトイレシートに変えてみて。



獣医師の玉野先生によると、健康な体の維持には食事と排泄が適切に行われているかが最も重要なのだそう。フードの選び方や与え方、トイレ環境の整え方に気を付けてあげましょう。

**ヒント 14**

- 病気予防に
- ストレス予防に

推薦者 

フードを温めたり混ぜたり、ニオイ付けしたりしてひと手間加えて与えてみる。市販のフードに少し手を加えるだけで食いつきが変わることも

猫は年をとると食の好みが変わるさくなると話す専門家も。食いつきが悪いときは、フードの種類を変えるのではなく、いつものフードを人肌に温めたり、砕いて粉末状にした猫用にほしなどを微量混ぜてニオイ付けするなど、食が進むようにひと工夫してみましょう。



**ヒント 15**

- 病気予防に

推薦者 

7才を過ぎ、食が細くなってきたら... 食事の回数を増やし、1回に与えるフードの量を減らす。消化を助ける工夫を

1回に食べられる量が減ってきたように感じたら、消化機能が低下しているのかもしれない。1回に与える量を減らして胃腸への負担を軽減し、消化を助けましょう。

## オメデトウ！ わが家のご長寿自慢

# 21才



札幌市 山根尚実さん さきくん(オス)

子猫のような小さな体で元気に過ごした成猫時代

倉庫に住み着いたノラ猫きょうだいのうち、一番弱っていたさき。保護したときすでに瀕死の状態でした。スポイトで栄養を与え、何とかもち直すと、体は小さなままでしたが、カセヒとつひかない元気な猫に。



4才10カ月の頃。命が危ぶまれた子猫時代がウソのように元気に

16才で腎臓を患ってからは、ちよっとした体調変化にも敏感に気を付けています

16才で腎臓を悪くし、その後18才になると、子猫時代の栄養不良の影響から犬歯が曲がってきました。フードをふやかすなどの工夫をしています。他にも、さきが自由に猫生を満喫するために飼い主としてできることがある限り、きちんと対応してあげたいです。



18才。病気をしてからだんだんスマートに



ソファの背もたれの上がお気に入りのさきくんのために、落ちても痛くないようソファ周りにはふかふかの昼寝布団が